

中学校第3学年 国語科 学習指導案

期 日 平成24年10月5日（金）第5校時
場 所 八代市立第四中学校 3年3組教室
指導者 教諭 野田 貢一

- 1 単元名 論旨を捉える
「論理の展開に着目して読もう」 新聞の社説を比較する （光村図書）

2 単元について

(1) 単元観

情報化が進む現代社会では、情報を収集する力や、確かさや質を吟味したり判断したりする力、また、それらを適切に活用していく力が求められる。実際に、異なる意見から課題や問題点を解決していくために、合意点を探って、議論をまとめなければならない場面がほとんどである。そのような場面において、論説や報道の果たす役割は大きいものがあると考えられる。しかしながら、日常生活の場においては、報道されている「社会問題」について、情報は受け入れるものの、自分には関係ないと思ったり、マスコミの情報を聞きかじっただけの状態、そのことを、さも自分の意見のように錯覚してしまったりすることがある。また、立場や考えの違いに出会ったとき、否定することに重み付けがなされ、目指すべき目標に対して、協働しながらよりよいものを創り上げていく姿が十分とは言えない状況が見受けられる。

本単元では、同一の題材に対する意見や根拠の異なる新聞の社説や、社会的事象に関する論説から、論の展開や根拠の示し方、発言や議論の仕方、意見の整理の仕方などを習得することができる。また、物事を多面的にとらえ、考え、判断し、表現していくことで、客観性の構築とともに、ものの見方の広がりや考えの深まりなど、より質の高い判断力や行動力など、実生活で生きてはたらく力が身に付くものと期待される。

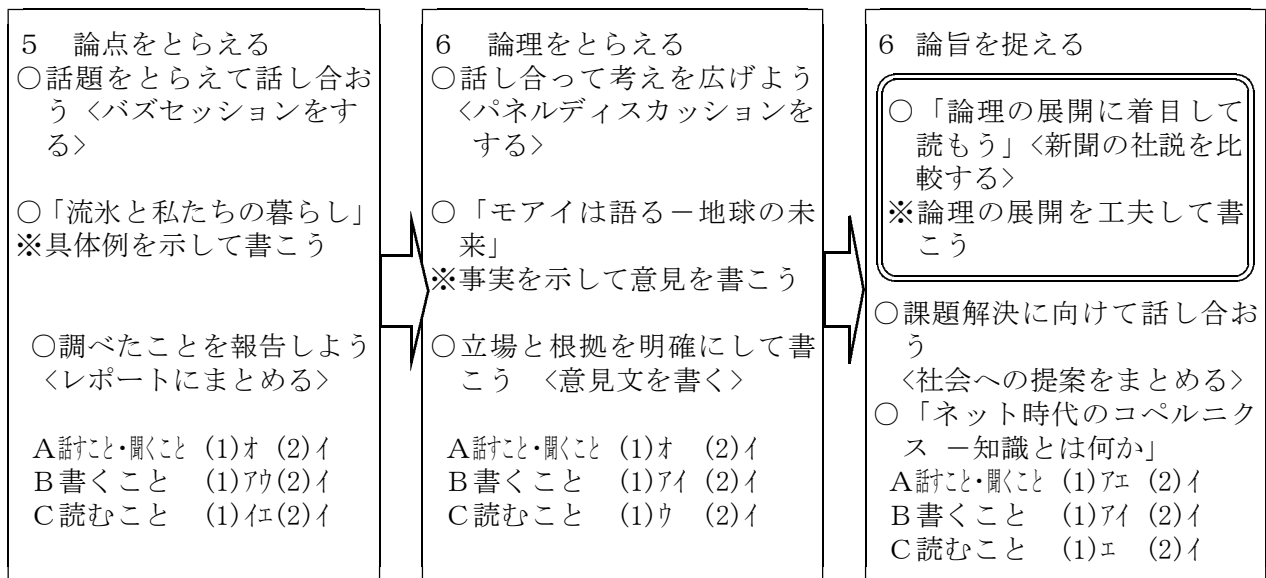
(2) 系統観

（論理の展開や表現の仕方をとらえ、内容の理解や自分の表現に生かすための学習系統）

<1年>

<2年>

<3年>



(3) 生徒観

本単元に関する生徒の実態は次の通りである。（N=36）（抜粋・理由や具体例は省略）

○新聞には目を通しますか。	よく＋まあまあ＝34.4%	※新聞を取っていない＝16.9%
○ニュース番組は見ますか。	よく＋まあまあ＝86.7%	
○生活をおくるうえで、新聞の効果や効用についてどのように考えますか。	大いに＋まあまあ＝89.0%	
○自分が知りたい情報について、複数の方法を使って調べますか。	よく＋まあまあ＝52.8%	
○新聞をはじめ、ニュース番組・インターネット等の報道にさまざまなところが携わっていることについて、どう思いますか。	多い方がよい＝64.8%	少ない方がよい＝9.9%

このことから、新聞が日常的なものになっていないことが伺える。さらに、この学年は、国語の学習における新聞についての学習の経験はほとんどなく、丁寧な学習指導が必要である。

説明的文章の読みについては、1学期に、「月の起源を探る」において、「研究や論の進め方は、科学的と言えるだろうか」という学習課題のもと、論の展開をとらえ、意見文を書く学習を行った。

また、全国学力・学習状況調査の結果から、「書くこと」に対しての意識や能力は、低くはない。ただ、自らの考えや感想を自由に記述することはできても、テキストの内容を課題や条件に応じて関連付けて表現することには課題がある。

そのため、テキストで述べられている事柄を相互に関連付けて解釈したり、それらを総合して考えたり生活経験と結び付けて考えをまとめたり、表現したりする能力を育成することが必要である。さらに、書き手が論説の対象として取り上げた物事について、どのような立場から、どのような論を展開しているかを読み取らせることが必要であると考ええる。

(4) 指導観

上記のことから、指導にあたっては次の点に留意する。

- 社説の論の展開を自分の意見文の構成や表現に生かしていくことを意識させる。
- 社説の内容に興味・関心を持って読んでいけるように、「国語に関する意識調査」を行い、意見や主張をまとめる際にも活用する。
- 文章中の用語については辞書等で調べさせたり解説を加えるなどして、内容の理解につなげる。
- 文章構成をとらえやすくするために、学習シートを活用する。
- 生活にいかしていけるよう、自分の体験や身の回りの出来事と比べたりして、テーマについての考えを深める。
- 意見交換の場を多く設定し、考えの共有化を図りながら、自己の考えを深めたり、表現に生かしていこうとする態度を高める。
- 授業のみの学習ではなく、新聞の社説やコラムについて触れさせるような、日常的・継続的な取組により社会生活で役立つ読解力を身に付けさせる。

Aプロジェクト 思考力、判断力、表現力等の育成の視点から	
本単元で高める思考力、判断力、表現力等とは、文章を読んで論旨をとらえ、論理の展開の仕方を批評したり、社会的な課題について説得力のある提案をしたりすることができる力ととらえる。 この能力を高めるために、三つの教材を中心に学習することにより、論旨をとらえる力を育成したい。論理の展開をとらえること、また、課題解決に向けた話し合いをすること、さらに論説文を読んで自分の意見を持つという学習を行う。文章等の論理性について理解することを習得させるべき事項とし、読むこと、書くこと、話すこと・聞くことの各領域で活用する学習活動を設定することで、論旨を捉え、批評する力を身に付けさせたい。	

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	筆者のものの見方や論の展開を理解し、論旨のとらえ方を身に付け、自己の表現にいかすことができる。
国語への関心・意欲・態度	①社会生活の中の話題に関心を持ち、課題の解決に向けて積極的に話し合い、互いの意見や考えをいかそうとしている。 ②社会生活の中の事柄について、自分の立場や意見を明確にして批評する文章を書こうとしている。 ③報道された情報に関心を持ち、進んで比較して読んで、自分の考えを持つようとしている。
話す・聞く能力	①相手を説得するために、根拠を明確にしたり、聞き手の理解を助ける工夫をしたりしている。 ②他の人の意見や考えを踏まえるとともに、場に応じた言葉遣いで自分の意見を述べている。 ③他の人の意見のよいところを指摘したり、調整の仕方を提案したりしながら、自分の意見を見直したり深めたりしている。 ④課題の解決に向けて、より多くの発言を求めたり、意見の調整の仕方を提案したりするなど、話し合いの進め方を工夫して話し合っている。
書く能力	①複数の資料を集めたり取材を繰り返したりして、自分の立場や意見の根拠を明確にして、批評する文章を書いている。 ②論理の展開が明確な批評の文章になるように、判断や評価の理由や資料の引用が適切かどうかを考えて、文章全体を整えている。
読む能力	①論説に盛り込まれた情報を比較して自分の考えを持つために、語句の使い方など書き手の工夫に注意して読んでいる。 ②論説に盛り込まれた情報を比較して、自分の考えを持つために、根拠となる事実の違いを理解し、文章の論理の展開の仕方をとらえて、内容を的確に理解している。 ③論説に盛り込まれた情報を比較し、述べられている内容について、立場を明らかにして自分の意見を持ち、まとめている。
国語についての知識・理解・技能	①新聞や雑誌等の文章に用いられている漢字を正しく読んだり、意味を理解している。 ②建設的に話し合えるよう、敬語など言葉遣いに注意している。

4 指導・評価の計画（14時間取扱い 本時 3/14）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ※プロジェクトの視点から	評価基準(基準B) (評価方法)
1	論理の展開に注目して読もう <社説の主張や論理展開を比較する>			
	1・2	○単元や教材の目標を知り、学習の見通しを持つ。 ○二つの社説を比較しながら読み、構成や展開、表現の仕方について、その違いや効果をとらえる。	○「国語に関する意識調査」を行い、興味・関心等を喚起する。 ○文章が三つのまとまりから構成されていることを押さえ、ワークシートを活用し、観点ごとに違いをまとめさせる。 ※文章の論理の展開を理解させる。主張・根拠について理解させる。	関心・意欲・態度③ ○観点にしたがって、内容を読み取り、三つのまとまりに分けようとしている。 読む能力①② ○二つの社説の違いについて理解し、書き手の意図や工夫を読み取ることができる。 言語についての知識・理解・技能① ○国語辞典などをもとに、文章中の語句の意味を正確にとらえている。
	3 (本時)	○二つの社説の主張や根拠に対して、自分の意見を持ち、そのことから、主張を明確にする。	○論の展開や表現の工夫などをもとにして、自分の考えをまとめさせる。 ※説明文の論理の展開を、主張・根拠を明らかにして読み比べさせる。	読む能力③ ○読み取った内容に対し、根拠を明確にしながら、自分の主張を明らかにすることができる。
	4	○自分の主張を確かなものにするための構成や内容を考え、600字程度の意見文を書く。 ○学習のまとめをする。	○はじめ・なか・おわりの文章構成を意識させる。 ○次時の学習につながるまとめ(評価)を行う。 ※読むことで学習した論理の展開のしかたを、書く活動で生かすように意識させる。	書く能力② ○自分の主張に対し、構成を工夫するとともに、根拠を明確にしながら、意見文を書くことができる。 関心・意欲・態度② ○説得力のある文章にするために、自分の考えをまとめようとしている。
3	課題解決に向けて話し合おう <課題解決に向けて説得力のある提案をし、効果的に話し合う>			
	5	○本教材の意義や目的を把握し、学習の見通しを持つ。 ○取り組みたい問題・課題を出し合い、集約する。(グループ会議①)	○社会に目を向けることの必要性を認識させる。 ○問題や課題の課題については、具体的な体験や事例を根拠として挙げさせる。時間の確保をする。	関心・意欲・態度① ○自分が取り組みたい課題を考え、課題解決のために積極的に話し合いに参加しようとしている。
	6	○全体で会議を開き、取り上げるべきテーマを決定する。(全体会議①)	○議長役の生徒に対しては、事前に打合わせを行い、会議が円滑に進むよう指導する。	話す・聞く能力② ○意見の共通点や相違点を押さえながら、結論に結び付けている。 言語についての知識・理解・技能② ○話し合いに適した言葉遣いで分かりやすく話している。
	7	○グループで具体的な内容や文章を検討し、原案を作成する。(グループ会議②) ○発表に必要なフリップや資料を作成する。	○多くのアイディアが出るように、ブレインストーミングを活用し、その中から必要性や効果・実現性等の視点から絞り込ませる。 ※根拠を明確にした自分の考	話す・聞く能力① ○自分の考えを、具体的な根拠や例を挙げながら、分かりやすく述べている。

			えにより、相手を説得できるようにする。	
	8	○各グループからの具体案を検討し、よりよい提案に仕上げる。(全体会議②)	○発表者・聞き手は相手意識を持って内容を考えたり発表したりする。	話す・聞く能力④ ○話し合いが効果的に進むよう、目的や方向性を意識しながら、意見を述べたり、聞いたりしている。
4	9	○話し合いを振り返り、課題解決のために有効だったこと、改善すべきことをまとめる。	○振り返るための観点を具体的に示し、根拠を持って評価できるようにする。	話す・聞く能力③ ○話し合い全体を振り返り、学んだことや、改善すべきことを具体的に挙げている。
5	10	ネット時代のコペルニクス <論理の展開を捉え、自分の意見をもつ>		
	10	○本教材の意義や目的を把握し、学習の見通しを持つ。 ○文章を三つのまとまりに分け、それぞれのまとまりが果たしている役割を考える	○問題提起の内容を意識させ、文章が三つのまとまりから構成されていることを押さえ、自分なりの考え(根拠)を持って分けさせる。 ※これまで学習した論理の展開の仕方をいかして、論説文を読み、情報化社会への自分の考えを持ち、批評させる。	関心・意欲・態度③ ○文章全体を、これまでの学習経験をもとに、自分の考えを持って、三つのまとまりに分けようとしている。
	11	○「序論」「本論1」から、インターネットの「可能性」と「困難」について考える。	○繰り返し出てくる語句をキーワードとして着目させながら読ませる。	読む能力② ○具体的な事例と結び付けながらまとめている。
	12	○「本論②」について、比喩などの表現に注意しながら、ネット検索と図書館の調べものの違いを具体的にまとめる。	○比喩の内容を具体的な事例に対応させて読み取らせる。	読む能力② ○比喩の部分に着目して、要点をまとめながら、自分の考えをまとめている。
	13	○「本論③」「結論」について、「コペルニクス」の例や「知識とは何か」について考え、筆者の主張を読み取る。 ○説得力を増すための手法について考える。	○抽象的な言葉が示している内容について考えさせながら、読み取らせる。 ○「コペルニクス」がどのようなことの比喩として登場しているかを考えさせる。	読む能力② ○抽象的な表現を具体的な内容と重ねながら、筆者の主張と結び付けている。 関心・意欲・態度① 自他の考えを積極的に交流しようとしている。
6	14	○筆者の主張をもとにして、情報化社会に対する自分の考えを文章でまとめ、互いに意見交換することで、深まりや広がりを持つ。	○筆者の考えと自分の考えを比較させながら、構成を考えさせる。 ○今後の自分にとっての必要性を考えさせる。	書く能力① ○これまでの経験などをもとに、筆者の考えと結び付けながら、情報化社会に対する考えを書いている。 関心・意欲・態度① ○自他の意見に積極的に触れ、今後にいかす評価をしている。

5 本時の学習

(1) 目標

二つの社説の文章の構成や展開、表現の仕方について考え、自分の主張を持つことができる。

(2) 評価基準

関心・意欲・態度①（観察）

（基準B）社説に対して意見を持ち、自分の主張について根拠を明確にまとめようとしている。

（基準A）社説や自分の主張に対し、具体的で説得力のある根拠をもとに、まとめようとしている。

読む能力②（ワークシート）

（基準B）社説の主張に対し、自分の考えを持ち、根拠を明確にしながら、主張を展開している。

（基準A）社説の主張に対し、具体的で説得力のある根拠を示しながら、自分の主張をまとめている。

(3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 ※Aプロジェクトの視点	備考
導入 10分	1 前時までの振り返りと本時の課題を確認する。【一斉】 二つの社説に対しての意見を持ち、自分の主張を明確にしよう。	○二つの社説の主張や事実や意見などを確認しましょう。	○論理の展開も確認する。	
展開 35分	2 課題に取り組む。 (1) 自分たちの「意識調査」の結果について考える。【一斉】 (2) 課題に対して自分なりの考えを持つ。【個人】 ○ 社説の主張や根拠に対して意見を持つ。【個人】 ↓ (3) 互いの考えを交流する。【グループ】 ↓ ○ 意見をもとに自分の主張や根拠を明確にする。【個人】	○気が付いたことを発表しましょう。 ○社説の主張やその根拠に対して、意見を持ち、自分の主張を明確にしましょう。	○自分の意見や主張への参考にさせる。 ※社説の主張・根拠と関連付けながら結果を読み取らせる。 【評価：関心・意欲・態度①（観察）】 <B基準に達しない生徒への手立て> ○根拠となり得る例を示し、聞き取りをしながら考えを促す。 <社説に対する意見のもち方> ①Aの社説の主張や根拠に共感できる。 ②Bの社説の主張や根拠に共感できる。 ③AとB、両方の社説の主張や根拠に共感できる。 ④AとB、両方の社説の主張や根拠に共感できない。 ○伝わるように発表しましょう。再度説明を求めたいときは、遠慮なく申し出ましょう。	意識調査の結果 学習シート
	○ 意見をもとに自分の主張や根拠を明確にする。【個人】	○意見交換をもとに、一段落で、主張や根拠をまとめましょう。	【評価：読む能力②（ワークシート）】 <B基準に達しない生徒への手立て> ○書き方の例を示す。 (主張→根拠・意見)	
	3 学びの確認する。【一斉】	○ものの見方・考え方の共通点や相違点を確認しましょう。	○考えや主張の多様性を感じられるように、生徒の考えを引き出す。	
終末 5分	4 次時への見通しを持つ。【一斉】	○自分の主張を確かなものにするため、内容をふくらませながら、構成を考え、文章を書きます。	○本時の学習をいかしていくことを確認する。	